

スクールホットライン

ヒマワリ ア・ラ・カルト

from 志水小学校

志水小学校では、昨年度より「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しています。

「福島ひまわり里親プロジェクト」とは、「県外の方にひまわりの種を買っていただき育ててもらおう。その育てた種を福島に戻してもらおう」というもので、その作業が震災により職を失った知的障がい者の方々の仕事になります。児童会の子どもたちと話し合い、志水小学校でも「ヒマワリの種をまいて育てよう」「福島のヒマワリの里親になろう」ということになりました。

五月の連休明けに種をまきました。五日ほどで発芽し、その後ぐんぐん育っていききました。夏休みに入る頃から大輪の花を咲かせ始め、太陽に向かって咲き誇る黄色のヒマワリはキラキラと輝き、元氣と幸せのシンボルのようです。世話をする子どもたちはこのヒマワリを見て、充実感溢れる表情をしていました。実った種を取り、福島へ送ると、プロジェクト終了となります。



今年十一月には、名古屋市を会場に、ESD国際会議が開かれます。子ども会議も開催され、児童会から数名、参加します。その中のポスターセッションでは「ひまわりプロジェクト」を紹介しながら「人・地域とつながる喜び」「ふるさとを守る大切さ」を伝えます。ヒマワリは今、志水小学校の活力の源になっています。

第七十一話

三菱重工南工場の進出(下)

そして、最後に名古屋近くの小牧飛行場を調べることになりました。なぜ、最後になったかといえば、小牧飛行場は米軍の管轄下の基地であり、当時はとてもそんなところに工場を作らせてほしいと言える状況でなかったのです。最初からあきらめていたのです。

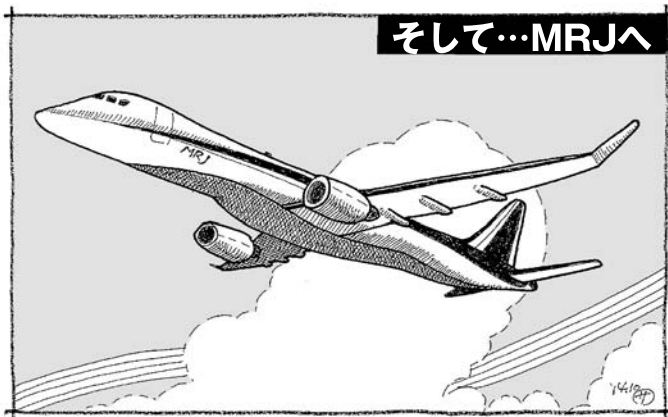
三菱には戦争中の図面が一枚だけ残っていたので、米軍の施設部隊に事情を説明して、協力を頼みました。米軍の図面と三菱の図面を照合すると、飛行場の西北の角に四角の空地が発見されました。

現地調査すると米軍が使っていない約八万五千坪の空き地があることが確認できました。

豊山村役場で調査すると、村の共同管理下で計画的な畑作をしていることが分かり、ようやく、飛行場に隣接する工場の候補地を見つけ出せました。住民との農作物補償問題を解決して土地の払い下げが実現しました。

昭和二十七年八月には、大府飛行場から格納庫が移築されて第一格納庫が完成し、小牧工場の竣工式が行われました。このあと国際飛行場の工場を移築して第二格納庫とし、鈴鹿飛行場の工場も移築して第三格納庫としました。

そして…MRJへ



水島、京都、三原、東京などに分散していた技術者達を再び名古屋に集め、直接作業をする人たちも立川米軍基地に技術習得の研修に派遣しました。そうして、昭和二十八年八月、最初の輸送機が搬入され、二百人の従業員で小牧南工場は始まりました。今は昔の物語です。(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)

